

いわゆる「ハゲタカジャーナル」への注意喚起と判別の手引き

1. 「ハゲタカジャーナル」とは

近年学術雑誌の世界において、従来の購読型ではなく、著者が掲載料（APC※）を支払うことにより論文をウェブ上で一般公開する、いわゆる「オープンアクセス誌（OA 誌）」が普及しています。しかしこの形式を悪用し、ずさんな査読あるいはほぼ査読なしで大量の論文を掲載し、掲載料を不当に搾取する業者が大きな問題となっています。こうした粗悪な雑誌は“Predatory Journal”（捕食ジャーナル）と呼ばれ、日本では「ハゲタカジャーナル」「悪徳雑誌」「粗悪学術誌」などとも呼ばれています。

ハゲタカジャーナルに論文を投稿することは、貴重な研究費が無駄になるだけでなく、研究者や所属機関の社会的評価を落とすことにもつながります。投稿する論文自体の内容に問題が無くとも、こうした悪質な雑誌に研究成果を載せること自体に問題があると言えます。

実際には、ハゲタカジャーナルとそうでない真正な学術雑誌との境界はあいまいであり、投稿先の雑誌を選ぶ際には、慎重に吟味する必要があります。

※APC=Article Processing Charge, 論文出版加工料とも訳される

2. ハゲタカジャーナルを見分けるためのチェックリスト

ハゲタカジャーナルの特徴としてまず以下の2点が挙げられます。

・ Eメールにより招待が来る
差出人のアドレスが不自然であったり、文法に不自然な箇所があったりするなど、スパムメールに近い特徴が見られることも多いようです。
・ 対象領域が広い（相互の関連性が低い複数の領域、広範な分野が対象となっている）
大量の原稿を集めるため、領域を不自然に広く設定していることがあります。

これらに当てはまるものが全てハゲタカであるというわけではなく、また当てはまらないものでも悪質な雑誌はありますが、疑うきっかけとして覚えておくことで予防に役立ちます。

怪しいと感じられた場合には、更に以下の項目を確認してください。

・ 正式な連絡先情報が記載されているか
・ 料金設定や請求方法は明瞭か
・ 査読プロセスや査読方針、また論文の撤回方針は明確か
・ 編集委員会は信頼できるか
著名な研究者の名前を勝手に編集委員として載せている例も多く見られます。 その研究者自身がその雑誌について言及しているかを調べたり、あるいは直接問い合わせたりしてみてもよいでしょう。

・掲載されている論文の質はどうか
まともな査読を経ていないため、質の良い論文も悪い論文も一緒に掲載されていると思われます。いくつかの論文をチェックしてみるとよいでしょう。
・謳われている評価指標は信頼できるものか
高い評価を得ていることをアピールするために何らかの数値を載せていることがありますが、それが本当に信頼に値する指標なのか注意する必要があります。また、信頼できる“Impact Factor”などを載せていてもその数値自体が虚偽であることもあり、後述のデータベースで確認を取ることが必要です。

世界的ないくつかの学術出版関連組織により合同で立ち上げられた“Think Check Submit”というキャンペーンサイトでも、同様のチェックリストが公開されています。

- ・“Think Check Submit”ウェブサイト <https://thinkchecksubmit.org/>
- ・チェックリスト（日本語訳） <http://thinkchecksubmit.org/translations/japanese/>

3. 参考になるツール（ホワイトリスト／ブラックリスト）

その雑誌が信頼できるかどうか確かめるために、別の情報源を当たることも重要です。信頼できる雑誌をまとめたホワイトリストと、ハゲタカと思われる雑誌をまとめたブラックリストがありますが、いずれの場合も完全なリストというものはなく、判断材料の一つとして利用することになります。

・ Journal Citation Reports (JCR) （本学契約データベース）
Clarivate Analytics 社が算出する雑誌の評価指標である“Impact Factor”を掲載しているデータベースです。審査を経て採録されているため、ここに収録されていること自体が一定の評価を得ているという判断材料になります。ただし、収録までに時間がかかること、後から収録中止となる雑誌もあることに注意が必要です。
・ Scopus （本学契約データベース）
Elsevier 社が提供する文献データベースです。こちらも一定の審査を経て収録されていますが、途中で収録中止になるものもあります。 以下のページでは、現在の収録リスト、中止になったジャーナルのリストをダウンロードすることができます。 https://www.elsevier.com/solutions/scopus/how-scopus-works/content
・ PubMed （MEDLINE）
PubMed に収録された論文が全て信頼できるものではありませんが、その主たるコンテンツである MEDLINE については、一定の審査を経た雑誌だけが収録されています。 MEDLINE 収録雑誌であるかどうかを調べるには“NLM Catalog”を参照します。調べたい雑誌名で検索し、“Currently indexed for MEDLINE”の表示があるかを確認します。 NLM Catalog https://www.ncbi.nlm.nih.gov/nlmcatalog/journals
・ DOAJ (Directory of Open Access Journals)
厳格な審査基準に基づき、質の高い査読付きオープンアクセス誌をまとめたリストです。

<ul style="list-style-type: none"> ・ COPE (Committee on Publication Ethics)
<p>学術論文の出版規範に関する活動を行なっている非営利組織のサイトです。メンバーとなっている雑誌や出版社はある程度信頼できると判断できます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ OASPA (Open Access Scholarly Publishers Association)
<p>オープンアクセス出版社が加盟する協会です。メンバーとなっている出版社はある程度信頼できると判断できます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ Beall のリスト
<p>アメリカの大学図書館員 Jeffrey Beall 氏が個人的に作成した、疑わしい出版社・雑誌のリストです。ハゲタカジャーナルを告発する先駆的な活動だったため影響力を持ちましたが、現在は更新・公開が中止されています。</p> <p>下記のウェブサイトは、匿名の研究者が Beall のリストを引継ぎ、また新たな出版者・雑誌を追加して掲載しているものです。(2021.3 リンク修正)</p> <p>https://beallist.net/</p>

4. 参考記事 (すべて 2019.7.9 にアクセス確認)

Andrea Hayward “ハゲタカ出版社を見抜くためのチェックリスト” (editage insights) (2018.2)

<https://www.editage.jp/insights/how-to-identify-predatory-publishers-a-checklist>

大阪大学附属図書館 “投稿先学術雑誌の評価方法”

<https://www.library.osaka-u.ac.jp/evaluation/>

栗山正光 “ハゲタカ出版者リストの消滅” (『月刊 DRF』86 号 7 頁, 2017.3)

<http://doi.org/10.18879/00009343>

佐藤翔 “日本の医学博士論文に潜む 7.5% のハゲタカ OA” (『情報の科学と技術』68 巻 10 号 511-2 頁, 2018.10)

https://doi.org/10.18919/jkg.68.10_511

新潟大学 “新潟大学における粗悪学術誌に対する方針について” (2018.11)

https://www.niigata-u.ac.jp/contribution/research/ethics/p_submission/

日本医学会 “悪徳雑誌への注意喚起について” (2019.3)

http://jams.med.or.jp/jamje/attention_vicejournal.pdf

北海道大学北キャンパス図書室 “午後の講座：オープンアクセスとハゲタカジャーナル” (2018.10)

<https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/71762>